



No. 51 2004. 11.

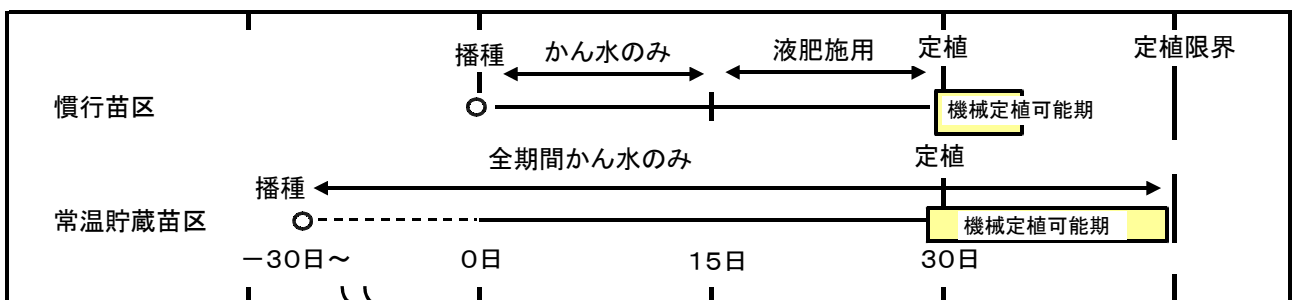
ブロッコリーのセル成型苗における 長期常温貯蔵が可能な育苗方法

徳島県のブロッコリー栽培は、8月下旬から9月下旬頃の定植が中心です。この時期は台風や秋雨等により定植が遅れてしまうことがあります。その場合、苗が徒長し、移植機による定植が困難になります。

また、ブロッコリーの育苗期間は約30日程度と決まっているため、定植時期が集中すると、播種時期も集中し、様々な農作業と競合するケースも出てきます。

そこで、定植が遅れても徒長せず、播種作業の分散化が可能な育苗法を開発したので紹介します。

育苗方法



底面給水育苗棚の例



左からブロッコリーの従来の苗(30日経過), 30日経過常温貯蔵苗, 1年経過常温貯蔵苗

○本育苗法の特徴

- ・ 常温で長期に貯蔵でき、苗の大きさもほぼ一定で維持できます。
- ・ 液肥処理等、管理の手間が省け、簡易に育苗できます。
- ・ 従来の苗と比べ、茎は太くがっしりした苗となり、取り扱いも楽になります。
- ・ 従来の苗と比べ、定植後の初期生育はややゆっくりしますが、品質や収量性は、ほぼ変わりません。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 野菜園芸担当
 TEL (088) 674-1660 FAX (088) 674-3114
<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>